



みなもとのよりと

かまくら ばくふ

源頼朝 は、なぜ鎌倉に幕府を開いたの



守りやすい地形であること、源氏とゆかりがあることなどが理由とされているんだよ。

守りやすい地形だった

鎌倉市は、北・東・西の三方を、標高50～100メートルくらいの丘おかに囲まれています。丘のふもとは、谷が多い複雑な地形です。市の南がわは、相模湾さがみわんに面しています。頼朝の時代には、まわりの丘と海が、敵の攻撃こうげきから守るのに、つごうのよい土地とされていました。

源氏にゆかりのある土地だった

平安時代の1028年に、今の千葉県を支配していた平忠常たいらのただつねが、反乱はんらんを起こしましたが、源頼信みなもとのよりのぶに降伏こうぷくしました。この乱の後、鎌倉に住んでいた平直方たいらのなおかたが、娘を、頼信の子頼義よりよしと結婚けっこんさせました。頼義や、その子義家よしいえは、鎌倉に住んだので、それ以後、鎌倉は、東国における源氏の拠点きょてんになりました。頼朝の父義朝よりともや兄義平よしひらも、鎌倉に住んでいました。このように、鎌倉は、源氏にゆかりのある土地だったのです。

京都から、はなれた所にいたかった

京都は、平安京ができて以来、貴族きそくが、自分たちを中心とする政治を行ってきた土地です。そこは、古くからのさまざまなくみやしきたりが、守られている世界です。頼朝を中心とする武士が、自分たちを中心とする、新しい政治のしくみをつくり、育てていくには、貴族が決める官職くわんしやく(役職)や、古いしきたりなどにとらわれない、新しい環境かんきやうを必要としました。そこで、京都からはなれた鎌倉を選んだ、という理由もあるようです。